



循環器呼吸器病センターにおける個人情報の漏えいについて

循環器呼吸器病センターの医師らが学会誌（オンライン版）に投稿した論文が、学会のホームページに掲載された際、一部のグラフが個人情報を含む元データを閲覧できる形式で作成されていたことで、個人情報が漏えいしたことが判明しました。

1 概要

令和7年6月20日に医療系学会の学会誌（オンライン版）に掲載された論文において、当センター医師らが論文を投稿した際、付録図表としてパワーポイントに貼り付けていたエクセルデータが、編集機能を利用することで患者の氏名等が記載された元データを閲覧できる状態だったため、個人情報が漏えいしました。

同年11月3日、当センターの医師が当該論文を閲覧中に元データを閲覧できることに気づき、個人情報が漏えいしたことが判明しました。

2 漏えいした情報

平成21年から令和5年12月までに、当センターで過敏性肺炎と診断された107名の患者の氏名、ID、生年月日、身長、体重、喫煙歴等、治療歴、検査結果、経過

3 原因

付録図表は、パワーポイント形式のファイルに、エクセルで作成したグラフをコピーして貼り付けたものでしたが、エクセル機能を十分に理解していなかったため、貼り付けの方法によって個人情報が含まれた元データを閲覧できることに気がつかなかったことが原因です。

また、学会誌に投稿する際も、投稿内容に個人情報が含まれていないか十分なチェックがされていませんでした。

4 対応（今後の予定を含む）

- 判明日に学会に付録図表の差替えを依頼し、同月5日に付録図表がPDF形式に差し替えられ、個人情報が閲覧できない状態になったことを確認しました。
- 個人情報が漏洩した107名の患者に対し、謝罪の連絡を行っています。
- 学会のホームページの閲覧は、学会員及び有料購読契約者に限定されており、現時点で、グラフの元データ閲覧により個人情報が他に流出した状況は確認されていません。
- 当センターの医師が投稿し掲載された論文で、同様の例がないか点検していますが、現時点で類似の事例は確認されていません。
- 改めて全職員あてに個人情報の取扱いについての注意喚起を行います。
- 論文執筆やグラフの作成時には、元データを閲覧できない形式にすること、また、論文投稿時にも、改めて再度、論文やグラフをチェックし、個人情報が閲覧できない状況にあることを確認することやPDF形式で投稿をすることなどにより、個人情報の厳格な取扱いを徹底し、再発防止に努めていきます。

問合せ先
循環器呼吸器病センター
事務局長 山崎 育子
副事務局長 木村 裕子
電話 045-701-9581（代表）